

## 平成 28 年度 身体障害者施設協会 日中活動支援委員会 報告書

○第 1 回 平成 29 年 3 月 6 日 (水) 15:00~17:00 アガペセンター

出席者 府川氏 (アガペ)・春木氏 (すこやか園)・大澤氏 (県西福祉センター)・辻本氏 (貴峰荘)・宮下 (れいんぼう川崎)

### 1. これまでの経緯確認と今後の日中活動委員会の在り方について

別紙資料「日中活動委員会の今後のありかたを検討するにあたって」をもとに委員長より説明と提案。

#### 検討事項

① 当委員会の存続の是非について。

② 存続するのであれば、どのような形で存続するべきであるか。

○制度改変が続いてきた中で、通所事業所管理者の横の連携、という一定の使命は果たしてきた。

○近年は目標を見失いつつあり、委員会の存続に苦勞する、という本末転倒の状況。

○一方で、横の連携があると心強い、との意見もあり。

○施設運営の中で、職員の業務遂行がマンネリ化している。マンネリ打破の前にマンネリに気づけていない状況もある。他事業所を見ることできっかけとしたい。職員交換研修のようなものはできないか。

○担当施設長を置いていなかった経緯は不明だが、今後は必須。

上記のような意見が聞かれ、現状のまま継続するのは適当ではない、との意見で一致。委員会の扱いを一度施設長会に戻すこととする。その上で、新たに委員会を立ち上げるのであれば「通所事業のサビ管の連絡会」がよいのではないかという方向でまとまる。

ただし、内容は絞り込む必要がある。今回のように方向性を見失うことが無いよう、目的や委員会の名称も含め、検討が必要。

通所事業所のサービス管理責任者は、個別支援計画を作成し、支援過程をマネジメントすることが役割の中心である。ケースワークやケアマネジメントの手法について検討し、研鑽できる場、と言うのがよいと考えられる。

事業所運営にまつわる悩みや制度のことなどについても情報交換できるとよいが、議題が広がりすぎて、中心となる委員会の目的についてぼやけてしまわないようにしておきたい。

### 2. その他

① 洗濯業務について

吐しゃ物などの処理について、各施設の対応を確認。

② 看護師をはじめとした人材の確保について

厳しい状況が続いている。待遇を上げるしかない、との意見もあった。

行政からの委託料や指定管理料で運営している施設については行政サイドの理解を求めていく必要がある。また地域の関係機関だけではなく一般の住民などにも関心を持ってもらえるよう、

広報活動や地域における活動などに参加していくことも大事。

○まとめ

前年度、役員改選が不調に終わったこともあり、今回は実質的な活動はできなかった。委員会のありかたを見直し、発展的解消、という形をとることができた。

平成 29 年 3 月 10 日

日中活動支援委員会委員長 川崎市れいんぼう川崎 宮下 拓